



# ふれあい

2011年12月  
現在の会員数  
男性 1,405名  
女性 560名  
合計 1,965名

No. 132  
2012年/1月

題字 府中市長 野口忠直 書

公益社団法人府中市シルバー人材センター発行/府中市寿町3-2 ふれあい会館2F/TEL.042-366-2322

## 賀正



手づくりの会による作品

目次	■ 新年のごあいさつ ..... 2
	■ シルバーフェア盛大に開催・役員研修 ... 3
	■ 会員職場訪問・ふすま障子 ..... 4
	■ 辰年生まれの会員さん ..... 4
	■ 安全委員会のパトロール ..... 5
	■ 高齢者自転車競技会 ..... 5
	■ フォーラムに参加・ボランティア... 6
	■ ゆうゆう便り ..... 6
	■ 安全推進大会・作品展・女性交流会のお知らせ..... 7
	■ センター活動の写真..... 8

謹賀新年

監 事	理 事	常務理事	副会長	会長
北 市 和 棟 三 丸 田 竹 芝 澤 小 黒 洪 西 本	村 川 田 方 坂 山 中 内 原 村 林 川 谷 隈 間	義 泰 道 鷹 益 俊 和 初 央 一 敏 京 邦 幸	彦 三 夫 揚 路 輔 美 子 充 男 彦 三 彰 彦 男	辰



# 新年のごあいさつ

会長 本間 幸男

新年あけましておめでとうござい  
ます。

平成24年の新春を健やかに迎え  
のこととお慶び申しあげます。

会員の皆様には、日頃から当セン  
ターの事業運営にご理解、ご協力を  
賜り心からお礼を申しあげる次第で  
あります。

昨年は、東日本大震災が発生し、  
大変な一年でありましたが、今年こ  
そ良い年になりますように期待して  
おります。

お陰様で、当センターは、昨年4

月1日に新しい法律に基づく公益社  
団法人としてスタートし、設立35周  
年となる本年は、いよいよその飛躍  
を遂げる大切な一年になります。

震災の影響や景気の低迷により、  
本年度の事業実績は、前年度比で数  
パーセント落ち込んでおりますが、

就業の場の確保に努め、会員皆様の  
シルバー精神を存分に発揮した毎日  
の就業の積み重ねで、その回復を図っ  
てまいりたいと存じます。

国のシルバー援助事業は、2年続  
けて事業仕分けにあり、国庫補助金



# 新年のごあいさつ

府中市長 野口 忠直

新年明けましておめでとうござい  
ます。

公益社団法人府中市シルバー人材  
センターの会員並びにご家族の皆様  
におかれましては、輝かしい平成24  
年の新春をお健やかに迎えのこと  
と心からお喜び申しあげます。また、  
皆様には日頃より、市政の様々な分  
野におきまして、ご理解とご協力を

いただいておりますことに、深く感  
謝申しあげる次第でございます。

さて、貴センターにおかれまして  
は、地域の発展のため、「共働・共  
助」の理念のもと日々活動され、市  
民の皆様をはじめ利用者から高い評  
価を得ておられますことは、誠にこ  
同慶にたえません。

これもひとえに、本間会長をはじ

はおよそ30パーセント削減され、厳  
しい事業運営を余儀なくされており  
ます。

高齢化社会におけるセンターの果  
たす役割の重要性を再認識してい  
ただくよう、各方面に働きかけ、公的  
支援の確保に一層の努力を傾注して  
まいります。

高齢者就業の拠点として、市内で  
唯一の公益法人である当センターに  
寄せる市民の期待は、ますます高まっ  
ております。しかしながら、残念な  
ことに、このところ、就業上の事  
々な問題、トラブル、事故等の事  
案が発生し、その対応に苦慮してい  
るのが実態であります。「自主・自  
立、共働・共助」の精神を逸脱した  
一部の者の行為が、市民のセンター  
全体に対する信用の失墜につながり

め、歴代の役員並びに会員皆様のご  
尽力の賜物でございます。改めま  
して深く敬意を表する次第ござい  
ます。

今日、団魂世代の定年退職期を迎  
え、貴重な経験や豊富な知識を有す  
る皆様が、いきいきと暮らすことが  
できるよう、高齢者の就労支援はも  
とより、社会参加の機会や場の提供  
が求められております。

本市といたしまして、市民の皆  
様が生きがいを持って、住み慣れた  
地域で暮らせるよう、高齢者福祉施  
策をはじめとして、様々な施策の推  
進に努めるとともに、シルバー人材

センターの活動を支援してまいりま  
すので、どうか皆様におかれまして  
は、健康に十分ご留意をいただき、  
今後とも、変わらぬお力添えを賜り  
ますようお願い申し上げます。

新春にあたり、公益社団法人府中  
市シルバー人材センターのますます  
のご発展と、会員並びにご家族皆様  
のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申  
しあげまして、新年のごあいさつと  
いたします。



## シルバー人材センターフェア フォーリス会場で盛大に開催

センターの事業を広く市民の方々にご理解いただくためのイベント「府中市シルバー人材センターフェア」が10月20日～21日並木通りのフォーリス1階「光と風の広場」で開催されました。

会場は「シルバーセンター・フェア」の大横断幕の下、広場の壁には80余枚のさまざまな就業現場の写真が展示され、今回は、総合PR・案内、植木・剪定の相談、ふとん乾燥、襖・障子の展示相談、刃物研ぎ実演、出張着付け相談、書道・パソコンの相談・体験、手作り小物販売の各コーナーが開設されました。

二日目には野口府中市長のご来場



もいただき、二日間で千九百余名のご来場者で大盛況のうちに幕を閉じました。

開催に先駆けて、「市広報ふちゅう」への掲載や、シルバー掲示板での「フェア開催」ポスターによるPR、また開催準備には、各コーナー担当班の代表で委員会を設置し、入念に打ち合わせを繰り返し、当日担当の120余名に徹底が図られました。

各コーナー担当はご来場の方々にチラシの配布はもとより、襖・障子コーナーでは最高級の襖を展示して、大好評を得、植木・剪定コーナーと共に依頼の相談が多かったが、両コーナーはこの季節は受注が一杯で来年の作業に！とお詫びの説明もありました。

総合案内コーナーではDVDも活用され、仕事案内、会員募集も行いました。書道コーナーでは壁に「千人文」を展示、体験コーナーを開設し、3歳の幼児から90歳のお年寄りまで来られ、書道教室への入会者も多数を数えました。ふとん乾燥コーナーは乾燥車をフォーリス前に駐車展示して多くの歩行者にPRし、人目を引いていました。刃物研ぎコーナーでの実演は、ご来場の方々に格別の興味を持っていただきました。出張着付けコーナーでは2体の人形モデルを展示、引き合いも多く、教室開設の要望もありました。パソコンコーナーでは3台のパソコン前の椅子が空く間がなく、終日年賀状・クリスマスカードの作成体験で一杯でした。手作り小物販売コーナーでは終日購入客がコーナーを取り囲み、売れ行き抜群で、昨年の3割アップの売り上げでした。また「無料持ち帰りタオル」と銘打って東日本大震災の募金をお願いしたところ、一万一千円もの募金が集まりました。

市民からは「こんなこともやっているのですか！」と驚嘆の声も聞かれ、それぞれのコーナーの活動がご来訪者の方々にご理解いただき、会員の豊富な経験や能力についても直接見ていただき、誠実な応対・態度にもご満足いただけたと思います。

## 第七ブロック役員研修が 調布市文化会館で開催

11月4日(金)午前10時～12時、調布市文化会館「たづくり」で「第七ブロックシルバー人材センター会員研修」が開催されました。

今回、各センターから派遣された役員の参加者総数は約100人の盛況、研修議題は喫緊のテーマ「新公益法人制度

について」でした。

開催地事務局長(調布市シルバー人材センター常務理事)竹山修氏のあいさつで始まり、講師は弁護士榎垣直人氏が2時間連続の講演を受け持つ。実体験に基づく熱弁をふるっていた。さすがはセンター事業に精通した顧問弁護士の語りは鮮やかなものです。内容は、

①東京都では、平成23年4月1日以降一部の地域を除いて都内のシルバー人材センターが新公益法人化の移行を完了しております。

②新制度では行政機関の裁量を制限し、公益法人に自主自立を認めており、一方では法人自体にその設立、運営等について自己責任を求めているともいえます。図式すれば「会員総会(立法)、理事会(行政)、監事(司法)」が三角形の頂点でバランスを保つ3権分立の論理です。

③新制度に於いては、理事・監事の職責、役割についても様々な規定が明文化されています。

④新制度においては、総会や理事会について、詳細に定められた法律上の規定に従って運営する必要があります。

最後の質疑応答の時間が短く、各センター役員が終了後個別に相談をし、有意義な機会となりました。



◆会員の職場訪問記◆

ワーク・ブランチの  
ふすま・障子班

最近のマンションでは少なくなりましたが普通の家庭には必ずあるものに「ふすま」や「障子」があります。

これらの張り替えを行っている技能職群があります。晩秋の穏やかな一日、「ワーク・ブランチ」に「ふすま・障子班」の職場訪問をしました。作業場では当番世話役(3ヶ月毎の交代制)の澤井修一さんを初めとして、総勢8名が黙々と作業をしておられました。

今年仕事の受注状態などを伺うと、順調に受注しているとのこと



す。繁忙期は土日を除く毎日、8名で月当たり100件程度、閑散期は二分の程度で受注量に応じて作業します。

ひと月毎の仕事は作業計画表により、引き取り、張替作業、納品までがローテーションで、きちんとした管理が行われていました。

皆さんにこの職群を選んだ理由を聞くと、経験は全くなかったが、入会時の面接で話を聞いて「これなら出来る」、「工作が得意だった」、「体力に応じて」という方々が殆どでした。

まだ日の浅い方もいましたが、先輩の指導を受けながら3年位しないと一人前になれませんかと謙虚に語っておられました。

また、就業10年以上のベテラン会員は、毎日が勉強で、己の技術を磨き、お客さんの立場になって丁寧な仕事を心掛けています。また、自分が納得する仕事ができるときや、お客さんから「有難う」と感謝された時の達成感、満足感もある反面、高級材料を使つての作業など緊張感もあるし、出来栄でも決して負けない積りの自負心も持つているとのことでした。この気持ち、作業態度こそがセンターの真骨頂として仕事結果に表れ、市民からも絶大な評価を受け、注文が絶えないのだろうと深く感じました。

辰年生まれの会員さん紹介



進藤礼次郎さん

日新町

平成12年6月、住友金属工業を定年退職し、8月にセンターに入会、翌年4月からインテリジェントパークの第一生命情報システム(株)に午前3時間の仕事を紹介され、10年半の長きにわたり勤め、昨年9月に終了した。執務環境が抜群で、ビル7階からは富士山や秩父山系の眺めも良く、すずかけ公園の四季の移ろいと共に快適に仕事ができました。

日新町地域班長になり10年になるが、会員との絆は触れ合う機会が増すほど強まることを実感します。

振り返れば、昭和15年秋田県生まれ、新潟県上越市の鉄鋼会社に就職、転勤で府中に転居して30年、新潟は第2のふるさと、府中が終の住処となった。

昨年から週3日、孫娘の子守係となり、疲れるが無心に遊ぶ孫を見ているとなんとも言えない充実感に満たされます。わが家の課題は墓地探しですが、長年の市民農園を楽しみながら、歴史散策、環境やまちづくり活動に体力・気力のある限り、関わりたいと思つています。



増村 一郎さん

緑町

還暦を過ぎて、あつという間に干支が一回りして72の齢を迎えることになった。即ち昭和15年の生まれということになる、おまけのような一回りだったが大過なく過ごせたことを感謝したい。

長年の会社勤めを終え、いつの頃から新聞で読んだ、孔子が弟子の子貢に請われて与えた言葉、「即ち怒なり」を座右の銘として生きてきたつもりであるが、凡人の常として貪瞋癡(とんじんち)の塊、どこまで近づけたのかは真に心もとない。

それでも、平成15年にセンターに入会して、パソコン教師として、学習センターの講習や、ダブルクリックでの個人指導を通して、教えることは教えられることを痛感しながら、わずかながらでも人の役に立てたのかなと自負しているところである。

この間で、最も大事に思ったことはまず健康体であること、手当たり次第に手を付けてきたが、最近はおバードゴルフにはまっている。自分の健康度を計る物差しとしても大変具合がいいと会う人ごとに参加を奨めている。



## ◆安全委員会の「安全。パトロール」◆ 作業中ヘルメット未着用をその場で注意

安全委員会では、23年度から毎月20日前後に、会員の就業現場を巡回して安全就業を徹底するための「安全。パトロール」を実施することにしました。更に、センターが、安全就業に真剣に取り組んでいる姿を市民に理解していただくためにも実施しています。

10月18日に安全委員3名による「安全。パトロール」を実施、お揃いのユニフォーム(ポランテアで、既におなじみのグリーン)の帽子、グリーン「メッシュのベスト」、更には、胸に「就業安全」のワッペン、左右の腕に「安全委員会」、「安全巡回。パトロール」の腕章を身につけて、各自、自転車に乗り、就業現場へ…

第1就業現場は多磨町の個人宅、植木班の2名が就業中。隣は駐車場、車は駐車していたが距離もあり、伐った枝木は塀の中に敷いたビニールシートの上に落とし、車を意識した作業とされた。ヘルメットは二人とも着用。

第2就業現場は若松公園。機械刈除草班の3名が就業中、作業にあった服装・履物、整頓された器具、作業環境も良好。作業スケジュールの調整が難

しいとのことであった。

第3就業現場は、多磨霊園駅北自転車有料駐車場。2名が就業中で制服着用。この駐車場は23年4月から、シルバー人材センターが請負った駐車場で、使用日、使用時間、作業方法等が変更され、市民の利用者がシステムに慣れるまで戸惑いがあったが、現在は、使用者対応が明るく親切なことが喜ばれている。

第4就業現場は、東府中駅南自転車駐車場。1名が就業中、制服着用、日中のため使用客は少ない。

2箇所の自転車駐車場とも、一時使用者からの料金を一時保管する収納箱に蓋が無く、利用者に付いて持ち場を離れた場合、盗難の心配が有り、予防対策が必要と感じた。

第5就業現場は、清水が丘の個人宅で、植木班が1名で就業中、作業に合った服装、履物、ただし、ヘルメットは未着用であった。

第6就業現場は、晴見町の個人宅、植木班の1名が就業中、隣家の駐車中の車にシート掛け養生がしてあり、事

故対策がされていた。作業に合った服装、履物、こしも、ヘルメットは未着用。ヘルメットは、必ず着用することが義務付けられており未着用の2名には口頭で注意を喚起した。

これからも安全就業基準を遵守し、就業に伴う事故を未然に防止できるよう頑張りたいと思っています。

## 高齢者自転車競技大会 10組中4位に入賞

11月5日、第一中学校校庭において午前10時30分より小学生・高齢者自転車競技大会が開催されました。参加者は高齢者チームが10組と



小学生チームが15組出場しました。センターからは、A・B2チーム、14名が参加しました。

実技は、難コースを設定してあり、普段の自転車運転とは違った難しい走行が多く、採点者が減点法で採点しておりました。

最後にグループごとに10問の交通ルールのペーパー試験があり、7人で考えて3分間で回答を出すことになっておりました。我がチームは10問中9問が正解でした。

小学生チームは見事な運転で、15組のチームが高齢者チーム10組が終了する前に全競技が終了していたことも立派で感心いたしました。

最後に表彰式がありBチームが4位に入賞いたしました。

小学生の個人優勝はこの難コースを減点0で走破したそうで、驚異という他ありません。

最近自転車による交通事故が多発しており、自転車を軽く見ないで交通法規を守ること、前後左右の確認をして慎重に運転しなければならぬということを感じいたしました。



★シルバー人材センターフォーラムに参加して★  
**健康寿命は男73歳、女78歳**

10月26日、東京しごとセンターで開催されました慶應義塾長 清家 篤氏の講演「高齢者の就業促進」の要旨をご紹介します。

日本の総人口の23.3%を65歳以上が占めている状態は悪い現象ではなく、生産・消費の両面において高齢化を活用できる社会を構築し、健康で、楽しく、喜んで生きて行ける生涯現役社会を、実現する好機と受け止めています。

WHOが公表している何歳位まで働きたいかという「平均健康寿命」が、日本人の男性73歳、女性78歳までとなっている、就業に対する高い意思、意欲が感じられます。

高齢者の蓄積された仕事への段取り、丁寧さ、正確さ、責任感の強さ等の能力は、高く評価されていますが、それを生かす環境を整備、定年の延長、新たな雇用、年金、医療等の社会制度の今後の柔軟な改革、見直しが緊急の課題となっています。併せて、培ってきました能力、知識、技能をさらにレベルアップし、「短距離競争からマラソン」へ、息の長い競争に耐えられる人材

になることが、強く求められています。

更に、地域社会活動に参加し、地域内の各層の団体との交流を深めることも、就業機会の創出、促進につながるかと考えています。まさに、シルバー人材センターは、最適な団体と言えます。

**紅葉丘地域のボランティア  
第2中学校周囲の清掃**

11月26日午後3時から4時まで、多磨霊園南参道に面している府中市立第2中学校の周囲の清掃ボランティアをセンター会員22名で実施しました。



◆「ゆうゆう」便り◆  
**手作り、子供書道が賑う**



「ゆうゆう」は、23年上期よりメンバーや休業日等の変更による新体制で、センターのアンテナショップとして、地域密着型の活動にメンバー全員が一丸となって取り組んでいます。

特に晴見町商店街主催の各種イベントには積極的に参加しており、商店街振興組合からは、そのような「ゆうゆう」の対応に感謝と高い評価を得ています。このような背景の中で「ゆうゆう」として現在取組中の一部をご紹介します。

(1) 洋服のリフォームについては、今では、商店街の重要な位置付けとして地域に浸透しその役割を果たしています。クリーニング店とのコラボも新たに実施し、お客様に対する満足度の向上に

つとめ、お客様拡大を図っています。

(2) 書道教室は、第1と第3土曜日の「子供コース」が人気が高く申込が多いため、従来の2コースの時間帯のほかに1コース(15時半から)を新設して、9月より1日3コースとして生徒受け入れの強化を図りました。

(3) 手作り作品の委託販売及び会員の絵画、書、写真などの展示を実施しています。特に休業日を活用している「手作り」班の皆さんによる積極的な活動は、20数名の会員が、月2回集って賑々しく和気あいあいと作品作りを楽しまれています。

また会員の絵画、書、写真等の展示もしております。委託販売、作品展示をご希望の方はいつでも「用命ください」。

(4) 府中市の委託事業である「粗大ごみシールの販売と収集受付」及び「府中市指定ごみ袋」の取り扱いも今では商店街の中に定着し、順調に推移しています。近隣の会員および役員、事務局の皆様も購入の際は、ぜひ「ゆうゆう」をご利用くださいますようお願い申し上げます。メンバー一同、心より皆様のご来店をお待ちしております。

電話 042(331)8695



## 第12回安全推進大会の ご案内

高齢者の健康維持・増進のための  
体操をおこないます。

毎年恒例となりましたインストラクターによる楽しい運動の指導をいたします。

### 記

日時：1月27日（金）

午後2時から4時まで

会場：ふれあい会館5階第4会議室

講師：府中市派遣スポーツ指導員

申し込みは事務局まで

## 第1回 ふれあい作品展

開催日

平成24年2月10日(金)から13日(月)

午前10時から午後5時（13日は午後3時まで）

会場

府中グリーンプラザ5階 展示ホール

展示

60歳以上の市民の方の作品（絵画、日本画、版画、書、写真、彫刻等）

《入場無料》

主催：公益社団法人 府中市シルバー人材センター（TEL042-366-2322）

後援：公益財団法人 府中文化振興財団

### 女性のための講演会と 交流会を開催します！

毎年恒例の女性会員の交流会を開催します。今回は少し形を変えて講演会と交流会にしました。楽しい企画を用意してたくさんのご参加をお待ちしております。

なお、一般の方の参加（会員ではない60歳以上の女性市民）も大歓迎です。是非お友達をお誘いください。

日時 2月6日(月)

午後1時から4時

場所 グリーンプラザ6階大会議室

第一部 講演会

講師 安生祐子氏

「60歳からの女性の生き方」

（元三鷹市シルバー人材センター事務局長）

第二部 交流会

参加費 500円(当日会場で)

申込みセンター事務局

電話 (366)2322(湯沢)

〆切は1月16日(月)まで

### ★シルバー川柳★

血と汗の酷税 使途が 麻痺してる  
ボランティア 資金不足の 人集め  
放射能 抱いて眠るは この地球  
片町 岡 莞弥  
(会員からの川柳を募集しています。)

### 編集後記

新年号の巻頭を飾るのは本間会長の力強い年頭宣言と野口忠直府中市長の新年激励のごあいさつです。

今年の干支は辰年、「辰年生まれの会員さん」は皆様元気溼刺です。特集「働く会員さんの職場訪問」第3弾はふすま障子班、ワークランチのご紹介です。

地域ボランティアが増えてきました。公益法人にとって最も喜ばしい傾向です。

新企画による「ふれあい作品展」もセンター全体で催事の成功が期待されております。

(広報委員会 三坂)





多摩職業能力開発センターの技能祭① 11月3日



在会年数別会員研修会 11月22日



多摩職業能力開発センターの技能祭② 11月3日



社会貢献事業いも堀体験① 11月4日



多摩職業能力開発センターの技能祭③ 11月3日



社会貢献事業いも堀体験② 11月4日



安全パトロールの活躍①



安全パトロールの活躍②



会員増強運動 1人1会員を勧誘しよう

ホームページ <http://www.fsc.or.jp/>

Eメール [fsc@fsc.or.jp](mailto:fsc@fsc.or.jp)